

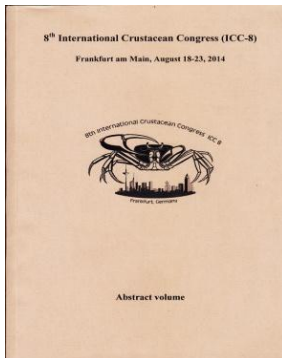
(1) フランクフルト国際甲殻類学会 (ICG-8) 大会参加・発表及び (2) 高校生の  
札幌国際甲殻類学会 (IAA & CSJ Joint International Conference on Crustacea  
IAA 20) 参加・英語での発表報告 :

丹羽信彰  
(神戸市立六甲アイランド高等学校)

(1) [フランクフルトでの演題]

Prevalence of the two ectosymbiotic worms *Holtodrilus truncatus* and *Scutariella japonica*  
on the host shrimp *Neocaridina* spp. from the Sugo River in western Japan in 2003-2013.  
Nobuaki Niwa

国際学会での英語の発表も 8 回目を迎えた。その内、高校生を引率して英語での発表は 4 回目  
(札幌大会) である。2014 年 8 月 17 日-25 日ドイツ フランクフルト Senckenberg 博物館・ゲー  
テ大学で開催された国際甲殻類学会 (ICG-8) に参加英語で発表した。発表内容は兵庫県菅生川  
に生息する淡水エビ *Neocaridina* spp. に付着するヒルミミズ *Holtodrilus truncatus* と  
*Scutariella japonica* の 2003-2013 の 10 年間の共生関係を論じた。当日は学会発表 (発表会場  
での他の研究者の発表内容の撮影は著作権の関係で、かたく禁止されていた。) もさることなが  
ら、現地で見聞した、フランクフルトの交通事情、ゲーテ大学で見た野ウサギ、エジプトガン、  
珍奇な簡易エレベーターなど、Senckenberg 博物館の恐竜群、ミュンヘンのドイツ博物館の Me262、  
Me163、V-1 などお伝えする。



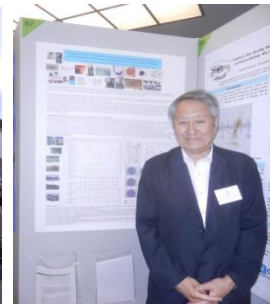
講演要旨集



Frankfurt 大会受付



Senckenberg 博物館



ポスター発表



ゲーテ大学発表会場



世界中の一流の甲殻類研究者が一堂に会する。



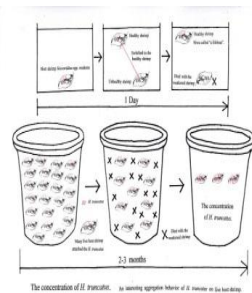
大学構内に野ウサギや外来種のエジプトガンが共存している。

ゲート大学で見た、見たことのない 1 人乗りの「珍奇なへんちくりんな木製簡易エレベーター」

## (2) [札幌での演題]：高校生の発表

Some examples of interaction on the host shrimp *Neocaridina* spp. and two ectosymbiotic worms *Holtodrilus truncatus* and *Scutariella japonica* from the Sugo River in western Japan.  
Nobuaki Niwa, Nobuto Oshima

海外の国際学会に高校生を参加させ英語で発表させるプロジェクトも 4 年目を迎えた。フランスは予算の関係で札幌で行われた日本甲殻類学会第 52 回大会と IAA20 (International Association of Astacology) の共催の国際学会に変更され参加・発表した。内容は兵庫県菅生川に生息する淡水エビ *Neocaridina* spp. にミミズは元気なエビに救命艇として避難するが、*Scutariella japonica* にはそのような性質はない。ヒルミミズのこの性質を利用して大量培養の可能性を論じた。発表は大成功であった。ヒルミミズ研究の第 1 人者米国の Gelder 博士との感激的な初出会いもあり、熱心に高校生の発表を聞いて下さった。海外での国際学会との大きな違いは、多くの日本の大学関係者が高校生に対して進路情報など相談に乗って下さった。学生は皆大学院生なので、高校 2 年生の本校生に海外・日本を問わず皆さん大変親切にして下さった。これがきっかけとなって、本人の進路が発展的になる事を期待する。当日は高校生が札幌のポスター発表の状況を報告する。



ヒルミミズ大量培養の概念図



ヒルミミズ研究の第 1 人者米国の Gelder 博士との感激的な初出会い。

日本甲殻類学会第 52 回大会と IAA20 (International Association of Astacology) の共催の国際学会の講演要旨集